



エルム第7号  
発行 / 医療法人北楡会  
札幌北楡病院  
編集 / 広報委員会  
責任者 / 久木田和丘  
発行 /  
平成12年10月1日

## 東棟ディールームを 拡張いたします。

食堂が近くになります

療養環境の整備のために、施設設備の改善を進めていますが、東棟三階・四階のディールームを拡張します。

新しい部屋は談話室兼、朝・昼・夕食ともお食事できる食堂としても利用できるようになります。

近日中に着工して11月下旬まで工事を行います。その間、入院中の患者さんには騒音などでご迷惑をおかけしますがご理解をお願いいたします。

## 喫煙室を廃止します。

ディールーム拡張にともない東棟の喫煙室を廃止いたします。当院では本人はもとより他の患者さんに及ぼす健康被害を考慮して本年1月より職員は院内での禁煙を実施しています。ご理解とご協力をお願いいたします。

## 歯科が11月より 全日診療となります。

当院では、診療科の増設に努めており、昨年来呼吸器科・循環器科さらに今春からは小児科を開設しました。

歯科は、平成8年5月より現在まで週3回、午後のみ診療を行ってききましたが、この度、北海道大学歯学部のご協力により固定医師による全日診療を実施することになりました。

## 正面玄関前工事が 終了しました。

7月号でご説明しました正面玄関前および、受付前ロビー拡張工事が、長い間ご迷惑をおかけしましたがこの度終了いたしました。

これにより、雨に濡れずに車から乗り降りでき、さらにロードヒーティングにより雪の日も安心して歩行できるようになりました。

又、中の受付ロビーも広くなり、カウンター左手には、相談専用コーナーを設けました。これにより、窓口での混雑緩和がはかれることになりました。

### 札幌北楡病院基本方針

- 1 : 患者さんに公正な医療を提供します。
- 2 : 患者さんの権利を尊重し、分かりやすい医療を行います。
- 3 : 患者さんの安全を保証し、快適で安心して治療に専念できる場を提供します。
- 4 : 高度医療を積極的に推し進めます。

# 病院紹介シリーズ第5回

## 薬剤部

最近、投薬ミスによる医療事故の報告が新聞やテレビ等で報じられることが多くなっていますが、当院におきましては、開院当初より患者さんへ'くすり'をより安全にお渡しするための試みを行っています。

入院患者さんに投与される注射薬につきましては、1987年よりすべて薬剤師により配合や、投与量等の確認を行い無菌的に調製しています。

この試みは道内初であり現在も365日専任の薬剤師が従事しています。

また、内服薬についても、1989年より薬剤師が入院患者さんのところへ行ってくすりの説明をし、相談を受けています。

さらに現在は、患者さんにくすりを直接配ることにより投薬ミスを防いでいます。

それでは、それぞれの業務について紹介します。

### ～ 外来患者さんのくすり～

外来患者さんのくすりは、院外処方箋を発行していますので患者さんは最寄りの調剤薬局でくすりを受けとります。

しかし、腹部エコー、大腸カメラ等の検査の前に飲むくすりは病院内の薬局で出しますので2階の薬局まで処方箋をお持ちください。

### ～ 入院患者さんのくすり～

入院患者さんのくすりには内服薬、注射薬と大きく2つに分かれます。

#### 【内服薬】

内服薬は、医師の処方箋に基づき入院患者さんの体の状態にあわせて当院独自の方法で4種類の方法に分けて調剤され、より患者さんが飲みやすいように工夫しています。

また、入院患者さんのくすりは担当の薬剤師がくすりを最終確認した後、患者さんのお手元に配り、その際にくすりの説明をし、相談を受けていますので、くすりについてわからないことや不安に思うことがあれば遠慮なくご相談ください。



患者さん用投薬ケース ベットサイドでの配薬と説明

#### 【注射薬】

注射薬は、医師の処方箋に基づき薬局で調剤され薬局内にある専用の部屋で専用の設備(クリーンベンチ)を用いて無菌状態で全ての入院患者さんの注射薬を専任の薬剤師が調製しています。

1992年、無菌製剤処理施設として承認を受けています。



東棟二階薬剤部



検査薬の説明



注射薬準備

注射薬専用調整室

以上、現在11名のスタッフで日々の業務に対応しています。

薬剤部 部長  
尾下 公人

# 休憩室

遅い朝、地下鉄に乗って街に出かけた。通勤時間帯からすこし過ぎてはいたが、車内はまだ込んでいた。途中駅からも沢山の乗客が乗ってくる。たまたま私の座っている前の席の人が降り、若い女性がその席に座った。

どこか見覚えのある人だ。娘の友達でもなさそうだし、なかなか思い出せない。こんな時刻なのに、疲れ気味で化粧気がない。座ったらすぐに目を閉じて寝ているようにも見える。「誰だったっけ、年はとりたく無いものだ」、思い出せず2～3の駅を通過したあたりで、その女性が目をさまし私の方を見た。と、その女性は急に笑顔になり、私に向かって会釈した。私もその笑顔を見た突然「そうだ！入院していた時の病棟の看護婦さんだ」と気がついた。立ち上がってこちらに来てくれ「おかわりありませんか。」と声をかけてくれた、私も車内と言うことを忘れて「あの時はお世話になりました。」と応えた。そして看護婦さんは笑顔のまま「お大事に」の言葉を残し、先に地下鉄から降りていった。

あの疲れた姿は乗車してきた駅から推察してきくと夜勤明けで、今、帰宅するところだったのだと一人で合点した。

今から五年程前、あと2ヶ月ほど後の定年を控えあわただしい日が続いていた。前から少しずつ病んでいたおなかの急な我慢出来ないほどの痛みとなりしかたなく病院へ駆け込んだ。

それまで「亭主の賞味期限は定年退職まで」と、悪態ばかりついていた女房や「かっこわるいから友達がきたら出てこないでね」と言っていた末娘など家族も、そのときは献身的に尽くしてくれ、今では食事に注意をしている事以外は、前の生活とほとんど変わりなくなった。

入院時、私は少々“ヤケ”になっていたようである。病室で定年を迎える事への悔しさや、会社を去ることにたいする寂しさがあった。どうせ病気が治って退院しても、自分は社会に必要なが無いのだという思いこみがあった。

気持ちのイライラは看護婦さんに対しても失礼な態度になって現れたに違いなかった。この時の話で今、記憶に残っている内容のものが一つも無い。

入院後は、いろいろな検査がすぐに行われ、やがて医師から結果の説明があった。この時、初めて、自分の正確な病名や、これから必要な手術の内容などを告げられた。

今まで病気をしたことが無く、健康だけが自慢だったのに、病名を告げられたあとは頭の中が真っ

白くなり医師の話はもうほとんど耳に入らなかった。

その日の夜、やっと落ち着いて病室で家族と共に医師の話の思い出していた。医師の機械的な話し方は要点を断片的にしか思い出させず、メモをしていた家内も専門用語の意味が分からず要領を得なかった。みんなで一緒に何を考えるでも無くぼんやりしていたら、看護婦さんが様子を聞きに来てくれた。訳を話すと、忙しい時にも関わらず私たちに分かりやすく教えてくれた。

分からない医学用語には真剣に、私たちの心配事には笑顔で応えてくれ、知らず知らず、私の病気への不安は解消され、病気への取り組み方、考え方が変わって行くのが分かった。

手術が終わって数日後大分快復して、一般病棟に移った、後で家族に言わせると、そこには入院時とは全く異なった私がいたようである。病気をして健康に対して感謝の気持ちを実感したとき、退院後は社会に対しても自分のためにも有意義に過ごしてやろうという意欲がわいてきた。

後に家族に聞いて分かったことだったが手術中を初め、度々と家族へも声をかけて下さっていたようであった。こうしてどのような時も変わらず励ましてくれた看護婦さんの「笑顔」は私にとっての一番の治療薬だったことに気がついたのである。

看護婦さんと地下鉄内で出会ってから思い出したように洗面の時に鏡の前で笑顔の練習をするようにした。

ある日、遠くでそれを見ていた女房に「顔が引きつっているよ。また病院でみてもらってきなさい。」と笑いながら言われた。

あの看護婦さんのように他の人の心をなごませる笑顔の達人になることは、なかなか難しいようだ。



# 療養情報センターニュース

ようやく過ごしやすい季節となりました。一雨ごとに秋の深まりを感じていらっしゃるかと思えます。

この時期は寒暖の差が大きいときです。皆さん体調には十分気を付けて下さいね。

今回は、

## 退院時の会計 特定疾患 診療情報提供

についてお伝えいたします。

### < 退院時の会計の方法 >

退院時の会計は

皆様の退院日時が会計へ連絡されます。

退院当日、会計から

- (1) 詰所に金額の連絡が入ります、
- (2) メディカルパートナーが皆様の所へお伝えに伺います、
- (3) 東棟1階の会計に行きお名前をおっしゃってください。

これで会計をすることができます。

書類などの手続き上、この順番が変わりますと、皆様を会計で、長い時間お待たせしてしまいます。どうぞ(2)のメディカルパートナーが病室に伺うまでお部屋でお待ちくださいますようお願いいたします。

都合により早く会計を済ませたい。等の希望がありましたら遠慮なくお申し出ください。



### < 特定疾患制度とは・・・ >

次に、特定疾患制度について説明させていただきます。

#### (1) 特定疾患制度について

- ・原因不明、治療がきわめて困難な疾病
- ・経過が長期、慢性にわたり、経済的、精神的に負担の大きい疾病

これらの疾病に該当するものの中から国や道が指定した疾病に対して国は昭和47年から「特定疾患治療研究事業」を行っています。

1. 実施主体 都道府県
2. 内容 医療費の助成  
疾病の調査・研究  
医療施設の整備
3. 対象疾患 国が指定

38 疾患

他に各都道府県で独自に指定

北海道は7 疾患

(難治性肝炎、橋本病、溶血性貧血、  
シェーグレン症候群他3 疾病)

\*対象疾患について詳しく知りたい方はお気軽に療養情報センターまでお問い合わせ下さい。

#### (2) 特定疾患の医療費について

1. = 入院患者さんの自己負担限度額 =  
医療費と食事療養費を含めて  
一医療機関につき月額 14,000 円  
(14,000 円に満たない場合はその額)  
= 外来患者さんの自己負担限度額 =  
薬剤の一部自己負担を含めて  
一医療機関につき月額 2,000 円  
(一日につき 1,000 円を限度に、  
月二回まで支払が必要)

\*訪問看護、院外処方による調剤薬局での薬剤費については一部負担はありません。

2. 次に該当する患者さんは全額公費負担が継続されます。

- ・スモン病
- ・クロイツフェルト・ヤコブ病
- ・劇症肝炎

- ・重症急性膵炎
- ・難病により日常生活に著しく支障がある方（申請により認定されます。）

3. 継続申請について  
 現在特定疾患医療受給者証をお持ちの方は、来年1月後半から継続申請の手続きができます。お忘れなく手続きをして下さい。

詳しくお知りになりたい、不明な点がある等お問い合わせは当院ケースワーカー又は各保健所（札幌市にお住まいの方は各保健センター）までお問い合わせ下さい。

### < 診療情報提供について >

当院では診療情報の提供を行っております。受付窓口は療養情報センターとなっておりますが、

入院患者さんは 各病棟婦長  
 外来患者さんは 外来婦長  
 に声を掛けていただきたいと思います。

ご不明な点がございましたら療養情報センターまでお問い合わせ下さい。

### 外来担当医一覧表

	月		火		水		木		金		土
	A M	P M	A M	P M	A M	P M	A M	P M	A M	P M	
内科	比嘉 小笠原 菅	小林	笠井 直原 木山 山口	小川	比嘉 小林 小笠原 近藤	笠井	直原 木山 小川	山口 菅	笠井 比嘉 木山 近藤	直原	輪番
消化器科	斉藤	中井	大泉	斉藤	斉藤	川村 鎌田	斉藤	中井	川村	大泉 加藤	輪番
呼吸器科	本田		本田		本田		本田		本田		
循環器科	山田						舟山				
外科	川村	目黒	米川	久木田	目黒	水戸	玉置	堀江 増子	久木田	玉置	輪番
整形外科	東 高橋		東		高橋		東		高橋		
小児科	安田		安田		安田		安田		安田		安田

眼科										
歯科										
禁煙外来										
リ-フ° 外来										



# お答えします

Q

病院院内ではスリッパに履き替えますが土足のままとしてもよいと思いますが  
(外来患者さんから)

毎日のように来院しているのでシューズロッカーに鍵をかけていたのですが、ある日別の靴が入り施錠してありました。鍵が別にあるのでは不安です。

(入院患者さんの家族の方から)

A

衛生面で清潔を保持するため、備え付けのスリッパに履き替えていただきます。ご協力をお願いします。

なお、スリッパは常に洗浄消毒済みのものを備え付けております。

シューズロッカーの鍵は使用後は次の利用者のためにそのまま差し入れておいて下さい。

当院では定期的に確認し、施錠状態でシューズが入っていない場合はスペアキーを補充しています。なお、鍵は必ずかけて下さい。

Q

先に入院している患者さんから行事食の事を聞き楽しみにしています。予定を教えてください。  
(入院患者さんの投書より)

A

今回は10月26日「秋の味覚まつり」をテーマに行います。行事食は、おおよそ一月半に一度の割合で行っております。詳しい日時が決定いたしましたら、院内の掲示板でお知らせいたします。

「秋の味覚まつり」の後の予定は12月14日にクリスマスを、そして2月上旬に節分、3月に春のバイキングとなっています。

当院では次の委員会を設置し、最良の医療をご提供できるよう努めています。

- ・医学倫理委員会
- ・安全委員会
- ・感染対策委員会
- ・輸血委員会
- ・在宅医療、訪問看護委員会
- ・診療録管理委員会
- ・薬品、医療用具委員会
- ・検査科管理委員会
- ・放射線障害防止委員会
- ・給食委員会
- ・治験審査委員会
- ・医療ガス安全管理委員会
- ・院内放送ビデオ委員会
- ・広報委員会
- ・研修委員会

編集後記：

表紙の写真、四頁目の落ち葉の写真、共に外来にご通院の佐藤千代子さんにご提供いただきました。元の紅葉の写真は上に字を被せたくないほどそれはそれは綺麗な秋の景色でした。

広報紙エルムは皆様のおかげで、早くも7号を発行することができました。時々来院の患者さんやご家族の方から、バックナンバーを見せて欲しいとご要望を頂いております。そこで、院内パンフレット置き場にバックナンバーを綴じていつでも閲覧できるようにいたしました。

広報紙エルムは1月、4月、7月、10月、年四回それぞれの季節の盛りに発行しています。今回は21世紀のお正月の予定です。皆様も良い景色が記録できましたらご提供くださいますようお願いいたします。(濱田)

医療法人北楡会 札幌北楡病院

診療科目：外科・内科・消化器科・呼吸器科  
循環器科・小児科・整形外科・眼科・麻酔科  
放射線科・歯科

住所：

札幌市白石区東札幌6条6丁目5番1号

TEL：011(865)0111

FAX：011(865)9634

交通：地下鉄白石駅5番出口から

環状通り北へ徒歩5分